

宮城県保健環境センター年報

平成 19 年度

ANNUAL REPORT
OF
MIYAGI PREFECTURAL INSTITUTE OF PUBLIC HEALTH AND ENVIRONMENT

No.26 2008

宮城県保健環境センター

はじめに

このたび、保健環境センターの平成19年度における業績をとりまとめ年報第26号として発刊する運びとなりました。年報に掲載される論文等は、担当した職員がそれぞれ精魂を傾けて取り組んだものです。何とぞ、ご高覧の上、忌憚のないご意見を賜れば幸いと存じます。

“いつもはあまり考えたことがなくとも、一旦自分や家族がけがをしたり病気になったりしてはじめて、健康への関心を持ち、医療技術やそれを支える基礎研究の必要性を認識する。”命に直接関与する医療にしてもこのような状況です。“病気になる前の予兆的・潜在的なものや直ちに生命の危機に結び付くことがない場合はどうだろうか。微小な環境の変化が複雑な経路を経て人体へ、そして最終的には地球全体へ取り返しのつかない影響を与えてしまう。”

保健環境センターは、このような複雑な因果関係を科学的根拠により解きほぐし、行政が行う諸対策に効果的、効率的に貢献する義務を有しています。そのためには、高度な技術と優秀なスタッフが不可欠であり、研究者それぞれが日頃の検査業務や調査研究業務を通じて、常に高所を目指さなければなりません。明らかな因果関係を有する事象が少なくなった昨今、より一層高い技術レベルが求められています。また、県政を取り巻く環境はますます厳しく、予算の削減、分析機器の老朽化、団塊の世代の大量退職など多くの試練を乗り越えなければなりません。

当センターにおいては、平成17年度から専門家や有識者による外部評価制度が導入され、組織体制、人材育成などセンターの運営全般に対する「機関評価」および研究課題の選定段階から研究計画、結果の評価までの「課題評価」について、細部にわたるご指摘・ご提言を頂いております。初年度の機関評価に続き、平成18年度から事前、中間、事後に分けて各研究課題に対する評価が行われ、研究の重要性、県が行う必要性、成果及びその波及性など研究全般にわたる貴重なご意見をいただき、その都度研究計画等へ反映させるべく努めてきたところです。

今後とも、この制度を適切に運用するとともに、センターが担う試験検査、調査研究そして健康危機管理体制の充実強化を図り、県民ニーズや行政課題に密着した課題に対して積極的に取り組んでまいりたいと考えておりますので、更なるご指導、ご支援のほどよろしくお願い致します。

平成20年12月

宮城県保健環境センター

所長 佐藤 信俊

目 次

A 事業概要

I 総 説

1 沿 革	1
2 機構及び業務分担	1
3 職 員	2
4 決 算	3
5 主要機械器具	4
6 技 術 研 修	7
7 講 師 等 派 遣	8
8 学術情報の収集	9

II 概 況

1 企画情報部	11
2 微生物部	13
3 生活化学部	18
4 環境化学部	20
5 大気環境部	22
6 水環境部	27

B 調査研究

I 論 文

宮城県の河川等における薬剤耐性菌	31
佐々木 美江 矢崎 知子 後藤 郁男 畠山 敬 渡邊 節 谷津 壽郎 齋藤 紀行	
平成19年度の腸管出血性大腸菌感染症事例	35
矢崎 知子 佐々木 美江 後藤 郁男 畠山 敬 渡邊 節 谷津 壽郎 齋藤 紀行	
ブタからのインフルエンザウイルスの分離 — 第2報 —	39
佐藤 由紀 庄司 美加 後藤 郁男 佐藤 千鶴子 植木 洋 上村 弘 沖村 容子 齋藤 紀行	
アミラーゼを用いたカキからのノロウイルス濃縮法の検討	42
庄司 美加 植木 洋 佐藤 千鶴子 佐藤 由紀 沖村 容子 上村 弘 齋藤 紀行	
宮城県内で分離されたヒト由来サルモネラの血清型および薬剤感受性 (2005～2007)	44
小林 妙子 高橋 恵美 谷津 壽郎 齋藤 紀行	

イカ塩辛による腸炎ビブリオ食中毒事例	48
加藤 浩之 高橋 恵美 佐々木 ひとえ 小林 妙子 菅原 優子 谷津 壽郎 齋藤 紀行	
宮城県の水環境に分布する医薬品類の分析	51
遠藤 美砂子 中村 朋之 畠山 敬 川向 和雄	
GC/MS/MSによる残留農薬の一斉分析	57
氏家 愛子 長谷部 洋 佐藤 勤	
宮城県内環境試料におけるPCBの分布と特性	63
中村 朋之 鈴木 滋 菱沼 早樹子 岩澤 理奈 佐久間 隆 斎藤 善則	
酸性雨自動測定に基づく事例解析(3)	67
仁平 明 高橋 誠幸 中村 栄一 木戸 一博	
大気汚染測定局における浮遊粒子状物質濃度の長期変動	73
高橋 誠幸 木立 博 仁平 明 加賀谷 秀樹	
ADMERを用いた大気中ベンゼン濃度推定について	76
小室 健一 佐久間 隆 木戸 一博 加賀谷 秀樹	
宮城県の環境騒音評価システムに関する検証結果	80
菊地 英男 高橋 誠幸 加賀谷 秀樹	
残留騒音測定における除外音処理方法の検討	84
菊地 英男 加賀谷 秀樹	
畜舎排水処理施設の周辺環境調査と機能検査について	88
赤崎 千香子 郷右近 順子 阿部 郁子 大金 仁一 佐々木 久雄	

II 資 料

平成19年度に宮城県で発生した3類感染症	93
微生物部	
宮城県結核・感染症発生動向調査事業	95
微生物部	
感染症流行予測調査	99
微生物部	
芽物野菜等の細菌汚染実態調査(2006～2007)	103
小林 妙子 高橋 恵美 佐々木 ひとえ 加藤 浩之 菅原 優子 谷津 壽郎 齋藤 紀行	
平成19年度収去食品検査(細菌検査)実績	105
微生物部	
平成19年度食中毒検査結果	106
微生物部	
平成19年度生活化学部検査結果	107
生活化学部	
平成19年度収去食品検査(理化学検査)実績	111
生活化学部	

化学物質・自然毒による食中毒事例および食品苦情事例	112
千葉 美子 林 都香 福原 郁子 長谷部 洋 遠藤 美砂子 氏家 愛子 加藤 謙一 佐藤 勤	
畜水産物中の残留動物用医薬品の一斉分析	115
遠藤 美砂子 佐藤 勤	
魚肉練製品中の小麦タンパクの分析について	117
山口 友美 清野 陽子 佐藤 勤	
亜硝酸根定量のための試料溶液調製法の検討	120
千葉 美子 林 都香 福原 郁子 加藤 謙一 佐藤 勤	
中国産冷凍餃子等に係る有機りん系農薬分析結果	123
氏家 愛子 長谷部 洋 佐藤 勤	
環境大気中のダイオキシン類分析結果	126
菱沼 早樹子 中村 朋之 岩澤 理奈 加藤 謙一 鈴木 滋 清野 陽子 佐々木 多栄子 斎藤 善則	
大気中の揮発性有機化合物調査	128
佐久間 隆 小泉 俊一 北村 洋子 木戸 一博 加賀谷 秀樹	
Ⅲ 調査研究課題一覧	131
C 研究発表状況	
I 他誌論文抄録	133
II 学会発表等	137
III 研究発表会	141